

## 第 1 回 歯科口腔保健部会 意見の抜粋

### 札幌市の歯科口腔保健の現状と課題

○金子委員

それぞれのライフステージの特徴が書いてあるが、いわゆる一般的な、全国的な特徴というふうに理解してよろしいか。

○事務局

ライフステージごとの特徴については、共通的な事項として置いている。

○小林委員

3 歳児のむし歯のない幼児の割合を区ごとに比較しているが、区ごとに 1 1 ポイントの差があるが、何か地域の特性が関係しているのか。

○事務局

今後、いろいろなデータを突き合わせながら、分析しなければいけない、今後の課題と考えている。

○野宮委員

課題のところ、周知ということが書いてあるが、これは、改めて周知するのか、現状でもこういう周知方法をやっているということなのか。

○事務局

課題の中でも、現在、手をつけているけれども、さらにここの部分は必要ではないかというところを、一旦、課題として置いている。現状と課題のご意見をいただいたものを反映させながら、その取り組みについても整理して次回にお示しする。

○玉腰副部長

むし歯の数を全国平均と比較したときに、3 歳では同じレベルで、1 2 歳になると札幌市はよくないということだが、これは既にわかっている原因があるのか。

○事務局

改善傾向にはあるが、政令市の中では、1 2 歳児で比べると低いほうであるという状況。これをどう評価するかというのは難しいところかと思う。

○宮崎委員

妊婦の歯科健診受診率が驚くぐらい低かったが、これは全国と比べてどうなのか、それから、歯科の健診システムやその取り組みは今までどのように行われていたのか。

○事務局

妊産婦の歯科健診は、各区保健センターで月1回、予約制で実施し、視診型健診と、その結果に応じて保健指導を実施。

また、妊産婦歯科健診は、政令指定都市20市のうち、行政の保健所、保健センターで受けていただくスタイルと、歯科医療機関で個別の健診で実施しているものと大きく二つの形式に分けることができ、直営方式（札幌市と同様の実施形態）をとっているところの受診率平均は平成25年度で8.3%。また、歯科医療機関で個別受診の形で実施されているところの平均は29.4%。直営方式が8市、歯科医療機関での個別の実施が10市実施形態としてはほぼ半々。

○玉腰副部長 資料5-12で、現在の歯の数が平均値で出ているが、問題になるぐらい歯が減っている人の割合という資料がもし出せるなら、平均値ではなくそういうものも見せていただけるといいかと思うが、可能か。

○事務局

例えば20本で線を引いて20本未満と20本以上ということは可能。全国の実態調査も、20本以上のデータが出ておりますので、次回に説明する。

○林委員 資料5-1で、札幌市の歯科の医療費が全国平均と比べて高いということだったが、医療費が高いから受診に結びつかないとか、健診に結びつかないとか、高いということが与えている影響はあるのか。経済的などところと受診行動の関連はどうか。

○事務局

まず、資料5-1のデータをどうやって解釈したらいいのかは、なかなか難しい。経済的などところは、基本的に突き合わせる情報がない。

○枝村委員

資料5-1で、歯は保険外診療をやっていると思うが、これはどちらか。

○事務局

これは、保険診療のもの。

○枝村委員 もう一点は、今回札幌で、ここはすごく危機感を持ってやっているというのがこの中にあるのか。例えば、障がい者のところは、他職種と連携するのが大事だとあるが、それは何年も同じだと思う。今回に向けて、この中でここを特別にどうこうしたいという課題があるのか。

○事務局（請井母子保健・歯科保健担当部長）

大きく課題として考えているのは、妊娠期と、高齢期。また障がい児、要介護者のところで、連携について、国でもむし歯とか歯周病の予防の観点のほかに、全体を進めていく中では、医科と歯科の連携とか、在宅の方をどうやって支えていくかが大きな課題と考えている。

#### 札幌市における歯科保健施策の方向性案について

○高橋部会長

どこに重点を置くのかということも、当然、この施策の方向性に反映されていくということによろしいか。

○事務局

その通り。

○玉腰副部会長

施策の方向性は、今、一番右に書いてある取り組み方針を目標にしてこれから中身を検討されると考えていいか。この取り組み方針は、まだ施策になっていないということによいか。

○事務局

健康さっぽろ21（第2次）の中で、例えば乳幼児であれば、「むし歯のない子どもを増やします。」「むし歯や歯周疾患のある人を減らします。」「かかりつけ歯科医を持つ人を増やします。」という方針があるので、その対応として置かせていただいた。

課題と対応しながら、どこをどう強化していくのか、新たに方向性を出すのかということにつながっていくものと考えている。

○野宮委員

資料5-1について

受診率が低くて、1件当たりの日数が高い、または、1日当たりの費用額が高いが、一般的に悪くなってから受診されるということが統計的に言われている。そして、札幌市の状況を比較すると、全国より低い受診率。悪くなってからかかるということ。悪くなれば治療がかなりかかるので、高額になる。1件当たりの日数が高くなり、当然、費用額も高くなる。これを定期的に検診することになれば、当然、受診率が上がっていき、それにかかる日数も低くなり、医療費も安くなるという統計の見方になる。

○玉腰副部長

今回出している3歳児と1歳6カ月児以外に区ごとに違いがあるかどうかという情報は出るのか。

○事務局

1歳6カ月児と3歳児のデータ以外では、歯周疾患検診のデータになる。第2回に出したほうがよろしいか。

○玉腰副部長

乳幼児期の課題のところに、区の状況に応じた対策をとることがあるので、ほかのものも共通に、ある区を重点的にしなければいけないとか、何か違いがあるようだったら参考になると思う。出せる範囲でお願いします。

○事務局

データを見ながらやらせていただく。